

2月のあたより (行事日程)



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			節分	節分	節分	室内レク
			東伯けんこう			
5	6	7	8	9	10	11
外食	室内レク	カラオケ 紅白歌合戦	カラオケ 紅白歌合戦	外食	おやつ作り	おやつ作り
			東伯けんこう			
12	13	14	15	16	17	18
おやつ作り	映画上映会	映画上映会	映画上映会	作品作り	室内レク	敬愛会
			東伯けんこう		東伯けんこう	
19	20	21	22	23	24	25
作品作り	作品作り	作品作り	作品作り	買物外出	買物外出	買物外出
			東伯けんこう		東伯けんこう	
26	27	28	<p>予定は天候や諸事情により変更する場合がございますので、何卒ご了承下さいませ。ご家族様も一緒に行事を楽しんでみませんか♪お気軽にご参加くださいませ。</p>			
買物外出	買物外出	室内レク				

節分と豆まきの由来

節分の由来

2月3日は「節分（せつぶん）」ですね。節分とは本来、「季節を分ける」つまり季節が移り変わる節日を指し、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、1年に4回あったものでした。ところが、日本では立春は1年のはじまりとして、とくに尊ばれたため、次第に節分といえば春の節分のみを指すようになっていったようです。



立春を1年のはじまりである新年と考えれば、節分は大晦日（おおみそか）にあたります。平安時代の宮中では、大晦日に陰陽師らによって旧年の厄や災難を祓い清める「追儺（ついな）」の行事が行われていました。室町時代以降は豆をまいて悪鬼を追い出す行事へと発展し、民間にも定着していきました。

京都ではこの時期、表鬼門にあたる「吉田神社」と裏鬼門にあたる「壬生寺（みぶでら）」の節分祭がとくに有名で、厄除節分会の期間中は大勢の人でごったがえします。

豆まきの由来

節分には豆をまきますが、これは中国の習俗が伝わったものとされています。豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。

豆まきは一般的に、一家の主人あるいは「年男」（その年の干支生まれの人）が豆をまくものとされていますが、家庭によっては家族全員で、というところも多いようです。家族は自分の数え年の数だけ豆を食べると病気にならず健康でいられると言われていました。

ただ、豆まきに使う豆は炒った豆でなくてはなりません。なぜなら、生の豆を使うと拾い忘れた豆から芽が出てしまうと縁起が悪いからです。「炒る」は「射る」にも通じ、また、鬼や大豆は陰陽五行説（「木」「火」「土」「金」「水」の五行）の「金」にあたり、この「金」の作用を減るといわれる「火」で大豆を炒ることで、鬼を封じ込めるという意味があります。そして最後は、豆を人間が食べてしまうことにより、鬼を退治した、ということになるわけです。